

平成 27 年度石見銀山基金事業の選定結果について

平成 27 年 1 月 24 (土) に開催した石見銀山基金事業公開審査会により、平成 27 年度 4 月以降に実施する石見銀山基金事業について、候補事業（要望事業）の公開プレゼンテーションと審査を行った。

今回、審査の対象となったのは、一般事業へ 1 団体から要望のあった事業で、審査の結果、基準点以上の評価を受け、条件付きで石見銀山基金事業として選定された。

以下、関連資料

- ・ 石見銀山基金事業選定委員会委員名簿
- ・ 一般事業リスト
- ・ 一般事業審査表
- ・ 選定基準

■石見銀山基金事業選定委員会委員名簿

(任期：平成25年 6月 1日～平成28年 3月31日)

氏名	職業・所属団体・役職	備考
渡邊 一正	NPO 市民文化財ネットワーク鳥取 理事長	委員長
久保田 典男	島根県立大学 准教授	副委員長
高須 佳奈	島根大学 講師	
榎 恒雄	大田商工会議所 前専務理事	
椿 真治	島根県教育庁文化財課 調整監	
青木 裕志	大田市 副市長	

※石見銀山基金事業公開審査会（平成27年1月24日開催）

（出席）渡邊委員、久保田委員、高須委員、椿委員、青木委員

■ 一般事業リスト

事業項目	申請団体名	事業名	事業概要	申請団体が目指す効果(目的)
一般事業	てんりょう 天領さん実行 委員会	天領さん大森会場の 開催	<p>天領さんは第34回の開催を数え、大田市民の祭りとして定着している。大森会場においては、一時期休止していたが、天領の御膝元である大森町での開催を望む声があり、地元住民が中心となり復活した。大森の町並み、歴史を生かした企画を考え、市民と県内外からの観光客を交えた石見銀山らしい事業の充実に取り組む。</p> <p>町並み 800m の範囲を車両通行止とし伝統的建造物の民家、お寺を活用、また、石見銀山大盛行列、サンヤ節、捲き上げ節、饅絵、講談など、石見銀山に残る歴史や文化を取り組んだ企画を展開する。</p> <p>また、行列エキストラ、らとちゃん似顔絵募集など子どもから大人まで市民の参画を得、天領さんを通して地元の歴史や文化に触れる機会を作る。</p> <p>食を通して、温泉津、仁摩地区の特産物販売など周辺地域の石見銀山 PR を展開する。</p> <p>それにより、石見銀山の歴史や文化に触れ、石見銀山の価値や魅力を共有することができる。</p>	<p>行列エキストラなど市民の参画を得て、地元住民、市民、事業者が連携して開催することで、地域コミュニティが生まれる。また、一緒に祭を作り上げることにより、人々の活力を創出し、生き生きと暮らす町の魅力を発信することができる。</p> <p>大盛行列、サンヤ節など石見銀山に残る貴重な歴史や文化を次世代へ伝えていくことができる。</p> <p>天領さん大森会場を充実させることができれば、来訪者の増加も見込まれ、賑わいを創出し来訪者の満足度も高まる。</p>

■ 一般事業 選定結果表

事業項目	申請団体	事業名	評価点	採否 採 択 ○ 不採 択 ×	備考
			平均点 (100 点満点)		
一般事業	てんりょう 天 領 さん実行委員会	天領さん大森会場の開催	64.2	○	条件付き ※別紙参照

※ 平均点の6割（60点）以上の点数を獲得した団体の中から、獲得点数の高い順に選定（事業採択）

選定委員会からの条件

申請団体：天^{てんりょう}領さん実行委員会
事業名：天領さん大森会場の開催

1. 天領さんのお祭りの中の大盛行列関係について、石見銀山基金を活用することで質の向上を明確に示すこと。
具体的には、往時のお祭りを彷彿とさせる設えを整え、役人、鉦夫、町民、農民、たたら製鉄、炭製造、林業等の関連産業に従事する人々なども一体となり、大森の町全体で文化的景観のイメージを具現化する等の工夫を添える。
2. このようにして工夫された衣食住と町並みのそれぞれが、大森らしさを醸し出すよう努めること。
3. これらの全てを一挙に叶えるのは容易ではないので、まずは2017年の世界遺産登録10周年を目指し、必要に応じて、市、県、国の協力を得ながら、時間をかけて入念に研究しながら徐々に整える体制をつくること。

■一般事業 選定基準

選定委員会は、次の評価項目について審査し、総得点の6割以上の点数を獲得した団体から順次、獲得点数の高い順に選定事業に選定します。

(1) 評価項目及び評価の着眼点

評価項目	評価の着眼点
① 継承性	I 地域の新しい価値の発掘・創造や地域共通の課題の存在を認識し解決を図る取組か。 II 未来の世代に良好な地域環境や地域社会をもたらす取組か。 III 目的を共有する誰もが参加できる組織による取組か。
② 必要性	I 社会情勢に応じてニーズが高い事業か。 II 取り組む必要性が明確な事業か。
③ 社会的公益性、 地域貢献性	I 広く地域、社会に貢献する活動か。 II 広く公開された事業か。 III 応募団体の構成員や特定の個人、団体が対象となる利益事業か。 IV 実施事業が団体で完結するのではなく、地域や住民との連携を伴うものか。 V 事業内容が地域課題の解決や活力の創出等に貢献する内容か。
④ 発展可能性	④ 発展可能性
⑤ 実現可能性、 団体の事業遂行 能力	I 実施体制、事業計画（規模・内容）、資金計画（財源や用途）、スケジュール等無理のない実現可能な活動か。 II 応募団体が企画及び事業遂行能力を持っているか。
⑥ 石見銀山らし さ	I 石見銀山の歴史、文化、自然、社会基盤等を活かす事業か。 II 石見銀山の新たな価値を見出し、地域への誇りを醸成する取組か。
⑦ 事業の新規性、 実効性	I この地域に新たに価値を付加する事業内容か。 II 新たな視点、発想、工夫やアイデアの企画、提案で独創性や創造性を感じられるか。 III 事業が具体的かつ実効性を持つものか。 IV 実施により想定される効果が期待できるか。 V 費用に対しての効果が認められるか。
⑧ 団体の広報力	応募団体が事業実施の際し、十分な事業告知を行い基金活用の趣旨を伝えるか。
⑨ プレゼンテー ション	プレゼンテーションにおいて、的確かつ魅力的に事業を説明できたか。
⑩ 費用の妥当性	活動の内容に見合った経費見積もりとなっているか。

(2) 評価方法

(1) の評価項目毎に別に基準を設けて、11段階評価で行います。

(各選定委員の最高点：10項目×10点＝100点)